

6 人権教育集会所活用

市内にある4か所の人権教育集会所は、地域住民に対する社会教育の充実を図り、社会福祉向上と人権教育・啓発に資するために設置され、地域住民の交流の場として幅広く活用されています。

「戸倉人権はつらつセンター」では、月1回の習字教室やガーデニング教室が開催され、地域住民の交流を深めています。

～ ま・ど・ぐ・ち ～

朝、妻から「封書」の投函を頼まれた。普通（定形）ではあるが、けっこう厚い。

妻「40グラム…欠けるかな。」

私「それなら92円だよ。切手もあるよ。」

妻「じゃあ、お願いねー。」

私「はいよー。」

.....

それでも、封筒の厚さが気になり、たまたま通りかかった郵便局に。窓口へ直行して、すぐに封書を差し出す。

私「あのう。これちょっと厚いのですが、大丈夫ですか？」

窓口の方「郵便ですね。こちらになります。」

向かってずっと左側の方を案内される。目の前をよく見ると「貯金・振替」の表示が…。私は、入ったところが、「郵便窓口」だと、すっかり思い込んでいた。

私「すいません。間違えました。」

手を差し出すと、その方はすっと席を立ち、そのまま封書を持って郵便窓口へ。

「〇〇さん、これお願い。」

私は、益々恐縮。

郵便窓口の方「重さは、大丈夫ですね。厚さも（スケールに通して）大丈夫ですよ。」

私「よろしくお願ひします。」

郵便窓口の方「ありがとうございました。」

その時になって、ハッと気づいた。初めて行ったこの郵便局は、なんと、こちら側にも入口がある…。私は、入ってきた入口の方へ戻り、『貯金・振替』窓口の前で立ち止まる。

私「ありがとうございました。」（会釈）

窓口の方々「ありがとうございました。」

さわやかな複数の声に送られた。

.....

帰宅後、事の顛末を妻に話す。

私「恥ずかしかったよ。」

妻「ありがとう。でも、そんなこと、よくあるよ。」

私「いや、郵便窓口は間違えないと思うよ。」

妻「でも、よかったね。親切にしてもらって。」

ところで、日頃から多くの方と接している私自身は、どうであろうか。

*思い込みから、確かめることを怠っていないか。

*間違いがあったときに、嫌な顔をしないで、その場にあった対応をしているか。

*言葉づかいは・・・

少なくとも、接し方で相手にいやな思いをさせたくはない。もとはといえば、不注意からであるが、自分自身の接し方まで考える出来事であった。

（人権ふれあいセンター所長 宮坂芳文）